

大気汚染物質の排出抑制のために

排ガス中のダスト濃度を連続的に測定する自動計測器について性能評価方法が標準化（JIS化）。



背景

- 工場等の排ガス中のダスト濃度：自動計測器による連続モニタリングが重要（環境監視、CSR推進）
- 欧米や中国、韓国：連続排ガス監視システムなどで地域での集中管理
- 日本：計測器の公的な規格がない⇒信頼性向上のために性能評価の公的な規格の制定が急務

成果

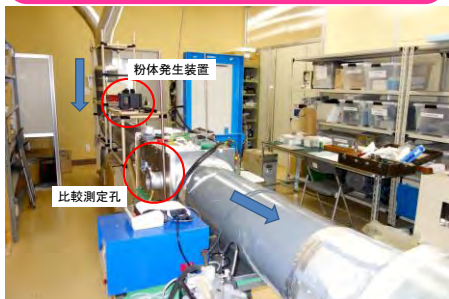
◆ ダスト濃度自動計測器の標準(JIS)化の流れ【経済産業省「新市場創造型標準化制度※」に採択】

① 性能評価方法のJIS制定（市販の計測器の信頼性向上のために）

② 製品開発と製品のJIS制定に向けて

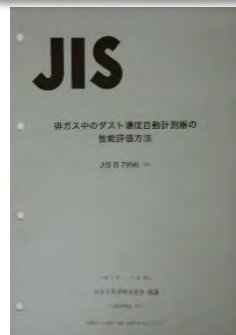
JIS原案作成委員会に参画し、**評価項目**を検討

試験風洞と模擬ダストで試験を実施して**評価項目と試験方法の妥当性を検証**



評価項目・試験方法決定
原案作成・提出・審議

JIS B 7996
「排ガス中のダスト濃度自動計測器の性能評価方法」
平成30年1月22日公示



-非吸引式光散乱方式-



工場等のボイラ（バイオマスボイラ、重油ボイラなど5施設）で実証試験を行い計測器を改良⇒**実用・製品化**

JIS制定

設置促進

工場等による自主管理の信頼性向上に貢献

※新市場創造型標準化制度：中堅・中小企業等が開発した優れた技術や製品について、一般財団法人日本規格協会の支援をうけて迅速に標準（JIS）化できる制度

期待される効果

上記成果 ⊕ 今後：①製品のJIS化、②測定方法の公定法への採用、を目指すことで

➢ 工場等でダスト濃度自動計測器の設置が増加⇒連続モニタリングが促進⇒大気汚染物質の排出抑制が期待される。